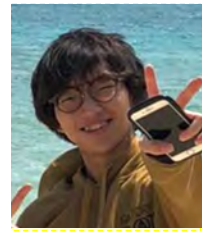


近郊都市における駅周辺環境の再整備

ー 地域資源と連携したサステナブルなまちづくり ー

Keywords

近郊都市 都市計画 サステナブル
地域資源 資源保護 資源活用



DZ17003 岩岡航輝

1. はじめに

1.1 研究背景

近郊都市と呼ばれる地域は、都市の人口増加や交通インフラの延伸により通勤通学者の居住区として市街化開発がされてきた。それに伴い中高層マンションや団地、戸建分譲地等が空地や緑地を開発しつくられた都市は、住宅や商店、工場が混在した雑多な都市となった。住宅市街地開発が頻繁に行われてきた金沢区の人口は1995年あたりから横這いで2007年から減少し続けている。

1.2 研究目的

近郊都市において今後は住居の量の確保から住居の間引きによる生活環境や都市景観の向上へと移行していく必要がある。本設計では都市開発で整備された八景島シーパラダイス等の観光地と、残存した自然や歴史等の地域資源を地域拠点と連携させることでできる、地域資源を保護活用し続けることが可能なサステナブルな都市空間について考える。

2. 対象敷地

2.1 敷地概要

敷地は神奈川県横浜市金沢区の金沢八景駅周辺とする。金沢八景駅は京浜急行線とシーサイドライン、幹線道路の3つの交通網が交差する金沢区唯一の駅である。西に市の天然記念物である樹叢の茂る御伊勢山・権現山と横浜市立大学、東に同じく天然記念物である琵琶島や瀬戸神社、干潟湾を有し、その他一帯は居住区となっている。



図1 敷地案内



図2 敷地詳細

2.2 敷地分析

(1) 交通インフラ

上記3つに加え、区内にはバス交通が張り巡らされ、高速道路は第三京浜、高速湾岸線と交通網が充実しているため居住地区としての移動利便性が高い。また電車利用で品川まで40分、東京まで60分と都心までのアクセスが良く近郊都市として住宅市街地化が行われてきた。

(2) 歴史

鎌倉時代より外港として発生し、その後東海道移動の休息地や景勝地「金沢八景」として発展した。昭和以降3度に渡る埋立に伴う住宅市街地化が進んだことで、市街地や工業地として形作られてきた。また武家文庫「金沢文庫(日本初の図書館とされている)」が生まれた場所でもある。

(3) 金沢池先埋立事業

横浜市六大事業のひとつで、横浜市都心部強化に伴う工場移転地の開発と、都市の急激な人口増加に伴うスプロール化を阻止するための住宅市街地開発を中心に、昭和46年から昭和63年にかけておこなわれた延660haに及ぶ埋立事業である。この際高速道路やシーサイドライン等交通インフラの整備と、失われた地先海面約8kmの海岸復元や親水環境整備、海洋資源を生かしたレジャー施設の整備が計画された。海の公園や八景島シーパラダイス等一部実現したもの、親水テラスや海上交通等実現できなかったものもある。

(4) 自然資源

金沢区の緑化率は横浜市の海に面する区内においては最大となる31.0%で、緑地は横浜市最高峰の大丸山山頂から広葉樹二次林が広がる他斜面緑地が残る。水域は源流を抑え、中流にかけて住民の憩いの場が形成され、下流から湾にかけては親水護岸整備が進んでいる。また川は東京湾まで流れ横浜市唯一の自然海浜へと続く。



図3 交通インフラ



図4 自然資源

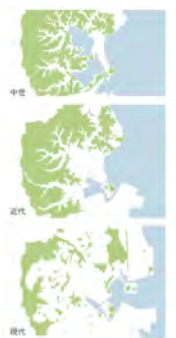


図5 移り変わり

(5) 観光資源その他地域資源

主な観光施設に八景島シーパラダイス、金沢動物園、称名寺、金沢文庫、ベイサイドマリーナ、海の公園、野島公園、小柴貯油施設跡地公園等が挙げられる。また歴史ある金沢区には神奈川県内の文化財469個中106個が存在し、内49個は称名寺にある。

2.2まちづくり計画

金沢区は「金沢区まちづくり方針」において金沢八景駅を含む金沢圏を区の拠点地区と定め、都市機能の集積と地域資源の連携を目指している。特に交通網が交差し地域資源に囲まれている金沢八景駅は、地域の生活拠点としての商業や業務等の集積と、観光や交流の起点となるための環境整備として周辺の産業団地や大学、地域資源の連携を図っている。また歩く観光として定めている地域資源を連携では、地図上のルート接続と歩道整備を構想しているが、加えて歩行者が自然とルートを認識できるきっかけとなる仕組みをつくることも必要だ。

2.3課題

生活拠点や交通網の接続を優先して開発されてきたため、中層建築物で囲まれている駅前閉鎖感や、住宅が立ち並ぶ事で起こる水際線のアクセスの悪さが目立つ。それらにより遮断される海への視界は解消すべき課題である。また京浜急行線とシーサイドラインが地上高約12m距離約20mの歩道橋で接続されていることや、駅周辺に商業施設や滞在空間が少ないことから駅利用客の周辺地域への流入が起きにくいことも課題である。



図6 現状の水際線

3. 設計提案

3.1動線計画

通勤通学導線の起点となる金沢八景駅前と、市民生活動線上の商業施設(イオン)、地域散策動線上の水際線の3点をループ状の動線で結ぶ。ループ上には親水広場を持つ建築を配置することで親水動線として各動線を繋ぎ、特に駅前では乗り換え利用者の駅周辺への流入を促すために親水広場を大きく設ける。また八景島シーパラダイスや柴漁港等を結ぶ新しい海上動線を整備する。加えて金沢区に張り巡らされているバス交通網を利用することで、駅前ループが都市全体での人の循環を生み出す。



図7 駅前ループから伸びる動線

3.2用途選定

異なる4動線の交差点となる駅前ループは多目的な人が往来するため、建築は各導線との分岐点となる場所に多用途に展開する。観光起点となる駅前は大人数の往来に対応できる広場と観光案内を、瀬戸神社裏には歴史伝承に特化した図書館別館と環境保護活動家のコミュニティとなる拠点を、イオン前にはイオン別館を立てることで施設外への流出を促し、河口には金沢区に不足する宿泊施設と金沢地先埋立事業で実現しなかった海上交通の拠点をそれぞれ設ける。また各建築に海を眺望できる空間を作ることで海に面する駅前の価値を引き出し、親水広場では地元宮川水系の生物相を取り込むことで、日常生活で視認されず生態系変動が露呈しにくい魚類をはじめとする地元の水棲生物の認知拡大を図る。

4. おわりに

個別に現存する観光資源と導線とを結び連携させることで、都市全体で人や資源の循環が起こり、ループから生まれる循環が都市機能となる。また開発や利便性確保のために失われる自然や歴史等の地域資源は都市機能の一部に取り込む事で存在意義が向上し、保護する対象へと移行するため、将来的には都市の発展による資源損失を抑える働きをするだろう。さらにそれは地域資源が生活環境に溶け込んだ魅力的でサステナブルなまちづくりへと繋がっていくと考える。

参考文献

- 1) 横浜市都市計画マスタープラン金沢プラン 金沢まちづくり方針
横浜市金沢区役所都市整備局
- 2) NPO法人田村明記念・まちづくり研究会
<https://www.machi-initiative.com/>
- 3) 6大事業の経過と今後の方向 金沢地先埋立事業 村上武
- 4) 国・神奈川県および横浜市 指定・登録文化財目録 横浜市教育委員会生涯学習文化財課

河口拠点

海に面した都市の特色を生かした
釣船屋を持つ棧橋を再整備し。

駅周辺の最短で海へ出られる親水テラスとして市民へ提供する
海上バスを整備しハッケイジマシーパラダイス、漁港等を結び
都市の新たな動線分岐点とする。

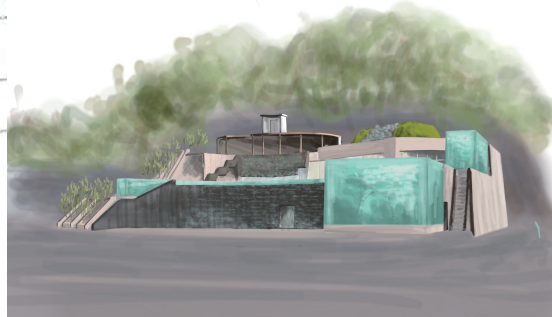
さらに金沢区に不足する宿泊施設を作り
都市の訪れ方の幅を広げ観光価値を高める。
カフェ前の広場は、商業施設前広場と連携し
中規模イベント時等での活用にも対応する。



商業施設（イオン）別館

市民利用の多いを駅前ループに取り込むことで
全国どこにでもある商業施設に付加価値を与える。
施設内での工夫ではなく施設外へ展開することで
他地域では実現不可能な体験を提供する。
あえて同用途の別館として作ることで
利用客を施設外（駅前ループ）へと誘う。

また地域課題である大量の放置自転車を一扫し
別館に新たな駐輪場を設けることでこれを解消する。



駅前ループ

金沢八景駅前から、駐輪場、環境保護拠点、展望台、商業施設別館、河口拠点の順で結ぶ。

金沢八景駅は人の交通の交差点となっており、異なる目的の人が集まる。

この異なる特性を持った場を親水広場という形で共通性を持たせることで散策導線を作り
金沢八景へ来た人々をこの駅前ループ上に引き込む。

それぞれが異なる用途を持ち、かつ地域資源と連携しているため
各施設からは別途動線が伸び、駅前ループから都市への流出を促していける。

駅前ループは駅前での循環を生み、さらに都市全体の循環の中心となる。
地域資源を利用したサステイナブルな都市へと成長させる。

駅前広場

改札前はたたずむ場所がなく、
ただ通路として使われている。
ここに海が見える広場を設置することで
人の駅前における滞在時間を延ばす。
また通勤ラッシュ時の混雑解消や
駅前でのライブ等イベントも行える。

駐輪場

フェンスで囲われている駐輪場に屋根を掛け
屋上を公園化し駅前ループに組み込むことで
元々の通勤通学者の利用を期待するとともに
貴重な駅周辺の土地を有効活用する。

環境保護拠点

自然資源は時に人の生活の利便性向上のための
避けられない犠牲として消失していく。

インフラ等は人の手でいくらかでも再生可能だが
長い時間を掛けて作られた自然は二度と再生できない。
人は貴重な資源資源を後世へ守っていく責任がある。
そのために自然資源を都市機能の一部とすることで
人の生活の一部とし保護していく。その拠点を設ける。
ここでは地元宮川水系の生物相を認知拡大のため保護展示する。